

OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第33号



出発前の成田空港にて

撮った写真を毎日、宿舎からインターネットを使って湘南高校サッカー部ホームページにアップ。日本にいる保護者やOBの皆さんは、遠い異国の地で元気に活動す



スペイン・ロンドン遠征レポート

湘南ペガサスサッカークラブ会長 46回生 森 秀樹

はじめに

湘南高校サッカー部の海外遠征は隔年に実施されて、今回で六回目である。今年の遠征は、三月二日出発、四月一日帰国という日程で行われ、生徒四六名、小林先生、サッカー部OB五名、ドクター、コーディネーター、添乗員の総勢約六〇名の大遠征であった。サッカー部OBは、山田（40回）、相羽（41回）、浅倉（45回）、森（46回）、それに昨年卒業した長の5名が参加した。

今回の遠征では、浅倉さんが広報係として大活躍。その日の活動の様子を撮った写真を毎日、宿舎からインターネットを使って湘南高校サッカー部ホームページにアップ。日本にいる保護者やOBの皆さんは、遠い異国の地で元気に活動す

る生徒達の姿を毎日確認する事ができました。浅倉さん、ありがとうございます。この報告書でも浅倉さんが撮影した写真を使ってレポートしていく。

1 英語研修 (E-ACT)

そもそも、私がこの遠征に参加するきっかけがこの英語研修であった。

前回の遠征時に行われた現地校生徒との英語によるディスカッションで思いうような意見交換が出来なかったという反省を踏まえて、OB会で事前に英語研修をしようという話が持ち上がり、私に講師をして欲しいとの打診があった。自身還暦を迎え、何らかの形で湘南サッカー部に恩返ししたいと考えていた私は二つ返事で引き受けた。

E-ACT (English As a Communication Tool) と題した二時間の英語研修を昨年八月から遠征直前の今年三月まで、毎月一度のペースで計八回実施した。

この英語研修の目的は、
◆現地校での英語によるディスカッションをより実りあるものにする。

◆英語によるコミュニケーションを高め
る。
の二点とした。

四六名の生徒を六つのグループに分け、それぞれグループに、事前にディスカッションのテーマを与える。一人ひとりが英語研修当日までにそのテーマについて英語でレポートをまとめる。研修当日は、グループ内で各自のレポートを発表。(一) 声が大きく明瞭な発音か、(二) レポート内容は興味深いか、(三) 主張ははっきり伝わったか、の三点についてグループ内で互いに採点し、最も高得点を獲得した者がクラス全体の前で発表する、という形で進めた。

例えば、グループ1はスペインの食べ物についてレポートする、グループ2はスペインの祭りについてレポートする、といった具合である。

試合の後の研修では眠い目をこすりながらの生徒もいたが、皆最後まで頑張ってくれた。何回かギターを持参して「みんなで歌おう！」もやった。カントリーロードは大合唱になった。このジョン・デンバーの名曲、今は音楽の授



英語研修「E-ACT」の様子。

業で歌うのだそうだ。知らなかった。

事前に訪問先の生徒と連絡を取り合っ
て当日のディスカッションのテーマを決
めておこうという事になり、生徒の代
表N君が一月初めにEメールを送ったが
返事が無い。相手校との間に入っていた
コーディネーターは心配するN君に対
して「スペイン人は時間に対する感覚
が日本人とは違うから返事を督促する
のは良くない。」というアドバイス。「た
ぶん単純な理由で返事が無いのだろう。
メールが届いていない可能性が高いが、
コーディネーターのアドバイスを従って
待つ事にしよう。」と、返事を待つ事に
した。しかし、一カ月以上待っても返事
無し。結局、アドレスが違っていてメー
ルが相手に届いていなかった事がわかっ
た。その結果、ディスカッションのテー
マに関して生徒同士の事前打合せが出
来なかった。(勿論、こちらは当日のデイ
スカッションテーマを想定して研修を進
めていたので大きな問題にはならなかつ
たが、。)

私が動いて状況を確認する方法はあっ
たが、敢えてそれをしなかったのは生徒
達に自分で悩んで困って欲しかったから
である。

今回Eメールのやり取りをしたN君
にとって、この経験は大きな収穫になっ
たはずである。

2 出発

平成二六年三月二日、まだ肌寒い
早朝の横浜駅西口に集合。二台の大型
バスに分乗して成田空港へ。成田空港
では、英語研修の為に英国へ向かう湘
南高校の別のグループと遭遇。両グルー
プは、ともに午前一二時二〇分成田発の
英国航空のフライトでロンドンへ。ロン
ドン空港で英語研修グループと別れを
告げ、一路マドリッドへ。マドリッド空
港着は現地時間で午後八時四〇分。と
ころが、一人の生徒のスーツケースが荷
物受取りカールセルから出てこない。海
外旅行は何が起ころるか分からない。生
徒達はいきなり洗礼を受ける形となった。
紛失荷物のクレームやなんだかんだで、
ホテルに着いたのは深夜となった。

同行のOB達は相羽さん行きつけ
(?)のホテル近くのスナック(当地で
はバルと呼ぶ)へ。相羽さんは、前回
(2年前)に訪問した時の写真を渡して
バルのおかみさんと抱擁。あつという間
にまるで常連客のよう。この人(相羽
さん)はすごい!

翌日、ホテル前から貸し切りバスに
分乗して、陸路スペイン北部の町、ビル
バオへ。約五時間の陸路。マドリッドの
市街地を抜けると三車線の素晴らしい
舗装道路は、カウボーイ映画に出てき
そうな荒野と岩山の間を北へ。

途中、小さな町のモーターで休憩。
現地のフラメンコダンス(女子高校生)
のグループと遭遇。なんとも元気でフ
レンドリーな女の子達との素敵な記念
写真となった。生徒達にとっては、異国
の地で初めての交流。昨日は空港でスー
ツケースが無くなるというトラブルがあっ
たが、今日は素晴らしい出逢い。期待
に胸を躍らせてビルバオへ向かった。

ここで、バス地方について一言。

現在は、スペインの北部と山脈を越え
たフランス側の一部を含む地方をバス
地方と呼び、独自の言葉と文化を持つ。
ビルバオはそのバス地方の主要都市の
一つ。商業と鉄鋼業で繁栄。スペインの
フランコ将軍時代は、スペイン語の使用



休憩所にて。
スペインダンスチームの元気な女子高生達と。

を強制され文化的にもスペイン傘下
入っていたが、フランコ将軍失脚以来、
広い自治権を勝ち取って現在に至ってい
る。美食会(男性が料理を作り、食べ、
バスクの歌を歌う地下組織)、サンセバ
スチャンという風光明媚な港町でも知
られている。日本ではバスク布でも有名。

3 ビルバオ到着・市内観光

午後二時に小雨のFADURAに到着。
(FADURAとはビルバオ市にあるスポー
ツ複合施設。)荷物を宿泊棟の部屋に置
いて、地下鉄でビルバオの市内観光へ。
目玉はグッケンハイム美術館。ニュー
ヨークにもある近代美術館のビルバオ版。
ブリキの大きな板を曲げて組み合わせ
たような銀色に輝く大建造物が川のほ
とりに立っている。この町の歴史を感じ
させるビルバオ旧市街の街並みとは全
く相いれない異様な建物である。山田、
相羽両先輩は、笑顔で、「俺たちは外で
待っているから。」と・・・いやな予感。
手荷物を預けるために延々と並んでやっ
と入ったそこはとても広い場所で、『良
くわからない』『大げさなもの』が館
内のあちこちに堂々と置いてある不思
議な空間。ここに来た者はこの巨大な
展示物の中に入ったか、その上に乗った
りして楽しむ事を期待されているようだ。
たしかにこれまで見たことも経験したこ

とのないものが沢山あったが、「何で?」とか、「何が?」とかクエスチョンマークが頭の上につきっぱなし状態。せっかくはるばる来たのだから全部を見てやろうと一所懸命歩き回ったが、むなしさと疲労感が残った。私の結論・これは無駄な建物である。建物の異様さはピルバオ市の観光冊子用写真としてはインパクト抜群のものだが、その中に入っただけ無駄な時間を過ごしたと感じたほど。人々の人は、二度と行かないと確信する。先輩達が笑顔で、「俺たちは外で待っている」と言った意味が理解できた。

4 FADURA 宿泊施設

今回、我々が4泊したFADURAは、サッカーランド、テニスコート、体育館、スイミングプール等と宿泊施設、食堂、バー等がある複合施設である。広い敷地内いくつもの建物が点在している。火を使わない簡単な朝食は宿泊棟の食堂で済ませることが出来るが、夕食は歩いて四・五分の別棟まで歩いていかなければならない。FADURAの夕食は、まず大きな皿にパスタが山盛りに出て、それを食べ終わると新しいプレートに肉や野菜が出てくる。初めの皿のパスタだけで腹一杯になるくらいの量だ。シニアの我々には食べきれない事もあったが、生徒達の評判は良かった。ところ



FADURAの食事は美味しかった。

で、夕食会場は二階にあった。そこへ行くには一階のバルの中を歩いて行くことになる。カウンターと小さなテーブルがいくつか並んでいるバルにはスポーツを終わった友人同士や、家族連れがアルコールを飲み歓談しながら食事をしていた。スポーツをする人も、しない人も集まって食事をしながら寛げる場所がスポーツ施設の中にあるのは羨ましいと思った。我々がシニアサッカーで利用する日本の運動施設には、着替える場所すらない所が多い。試合後にグラウンド横のクラブハウスで軽く一杯やって云々などという事は夢のまた夢というところか。地域の老若男女が集う場所としてのスポーツ施設を早く日本でも作りたいと思う。

5 親善試合(1)

最初の親善試合は地下鉄の終点にある海岸沿いの町、プレントピアのサッカーランドで行われた。あいにくの雨模様にもかかわらず、スタンドには地元の子供たちが多数集まった。そう、その町のサッカー専用スタンドには立派なスタンドがあるのだ。それだけではない。ウォーミングアップ用のサブグラウンド、着替えの為の建物、シャワー室。さらにバルのあるクラブハウスも。

サブグラウンドでは小学校に入るか入らないかという子供たちがボールを蹴っていた。若い指導者が3人。大学生が。きちんと並んでトラップ、パスの練習をしている。子供たちの笑い声や楽しそうな声が響いていた。

試合終了後、グラウンド横のクラブハウスでパーティーとなった。数時間前まで、近くの親父さん達が何人かカウンターでゆっくりお茶を飲んでいたり、飲んでいた場所にテーブルを並べて飲み物を置き準備万端。試合を終え



親善試合に集まったプレントピアの皆さん

てシャワーを浴びた選手たち、その父兄、小学生の子供たちも集まって大歓迎。立錫の余地もない

というのはこのことを言うのだから。100人近くの子供たちが狭い開場に

いっばいになって、ワイワイガヤガヤ。我が湘南高校サッカー部の生徒たちは、スペイン語で話す地元の子供たちと歓談して大いに盛り上がっている。言葉が通じなくても身振り手振りで。素晴らしき手作りの歓迎会だ。会場の熱気にはいささか圧倒された。なんというフレンドリーな方々だろう。

6 学校交流会

ガッツエルエタという舌を噛みそうな名前の学校。地元の優れた子弟が集まる、日本で言うところの小中高一貫校である。この学校は、英語でコミュニケーションが出来るリーダーを育てる事を目標としている。

小高い丘の上に歴史を感じさせる立派な建物がいくつも並んでいる。そのな



親善試合後のパーティー



代表者によるパネルディスカッション

かにサッカーグラウンドも。今回の訪問目的は、高校の生徒たちとの英語によるデイスカッションと親善試合であった。我々が学校の門をはいると子供達の歓声が聞こえてきた。校舎の窓に鈴なりになった小学生、それも低学年の子供達が手を振っているのだ。休み時間になると子供達が外に出てきて、来訪者である我々の周りにワーッと集まってくる。興味深々のキラキラした目で。こちらは突然テレビの人気者にでもなったような気分。子供達にせがまれて何回彼らの掌にボールペンで漢字で自分の名前を書いた事だろう。きつと彼らは家に帰ってあのキラキラした目でお父さんやお母さんに、今日あった出来事を話

しているのだろう。

さて、我々を迎えてくれた高校生の代表達はみな流調な英語をしゃべる。そして、それぞれがホストとして客人を迎える意識をしっかり持っている。

両校の代表が前に出て英語によるパネルディスカッション。湘南高校サッカー部代表の五名がパネリストのテーブルに着いてガッツェルタ校の代表と質疑応答。相羽さん曰く、2年前に比べかなりうまくいった、と。

我が湘南サッカー部代表には、「上を向いて歩こう」を笑顔のアカペラで歌う猛者もいて会場を沸かせた。心強く思う。

英語でのデイスカッションは初体験の生徒達。思うように意思疎通ができない場面も多かったはずだが、うまくいった事も、うまくいかなかった事もきつと将来役に立つはずだ。

7 親善試合(2)

アスレチコ・ビルバオのユースチームとの親善試合。リーグエスパニョーラの上位をキープするクラブだ。選手はバスク地方出身者のみという特徴を持ったクラブである。アスレチコ・ビルバオの本拠地は、ブドウ畑の緩やかな斜面につくられた、全部で4面のサッカー場とクラブハウスなどからなっている



アスレチコ・ビルバオのユースチームと親善試合

複合施設だ。前回訪問時にも対戦したそうだが、その時は力が均衡してとても良い試合になったとの事。今年も面白い試合になると期待して行ったが、相手は前回の反省として(？)、1歳年上のチームを出してきた。わが湘南高校サッカー部の選手たちに比べて体は一回り大きい、バランスも良い。当日は、初め降っていた冷たい雨が、試合開始頃から激しい嵐になり、パチンコ玉位の大きさのあられがバチバチ音を立てて

降ってくるというひどい条件だった。天候が良からうと悪からうと力の差は明らか。後半、相手は体の少し小さなチームに交代。それでも8対0という惨憺たる状況。試合は、あられがひどくなったので途中で中止となった。

今回、試合のアレンジをすべて島貫さんをお願いしたが、その大変さが身にしみてわかった。まず、相手チームのレベルの確認。当然ながらレベルが大きく違えば試合は面白くないものになる。相手が強すぎても、弱すぎても、である。次に、相手のスケジュールとの兼ね合い。前日地元のリーグ戦等があれば当然のことながら試合を成立させる為のメンバーを集めるのは困難になる。

このあたりの仕事は、かつてバスケットでサッカー選手を目指してトレーニングし、現在は日本とバスクの交流会会長を務める島貫さんの力がなければ不可能であったと思う。感謝する。

8 プロの試合観戦

ビルバオ 到着した その日に見たりーガエ



フルハム対エバートの試合観戦

スパニョール、ビルバオ対ゲタフェの試合は夜の10時キックオフ。ビルバオのホームゲームである。今回初めてのプロ試合観戦。早速グッズ売り場でアスレチコ・ビルバオのおみやげを買う生徒も。試合が終わったのは深夜。バスに乗るために集合したが、何万人という客が家路を急ぐスタジアム横の暗い通路での集合だったので心配したが、一人も欠けずに集合できた。迷子が出てもおかしくない場面だった。湘南の生徒だからできたことかもしれない。

英国では、U・21のトッテナム・ホットスパーとアーセナルの試合が面白かった。トップチームを目指す若者たちのプレーははつらつとして見ていて気持ちが良い。生徒達にとっても参考になることが多かったと思う。

一方、トップチームの試合は迫力が違う。プレーはもちろん、観客の迫力も凄い。プロの試合の観客はほとんど100%男。女性ファンは稀である。ロンドン郊外のフルハムとエバートンの試合では、サッカーは労働者のスポーツだと感じた。男・男・男の世界である。ビールとたばこ、スタンドを揺らして大声で歌う、そんな世界。

9 B&Sデー ロンドン

生徒達は大英美術館前で地元の日本

語を学ぶ大学生達と待ち合わせして、小グループに分かれて市内観光をする日 (Brother & Sister Day)。生徒達にとっては、英語でコミュニケーションする機会。

OB達にとっては自由行動の一日。朝倉さんと僕は、ハイドパークでジョギングをした後ミュージカルを見て過ごす事にした。

まず、大英美術館で開催されていたゴッホのひまわりの特別展を鑑賞。世界に4枚あるというゴッホのひまわりのうち2枚が並んで展示されていた。ゴッホのひまわりに因んだ特設のおみやげコーナーにも立ち寄り家人へのみやげを買う。その後、歩いて五分ほどの所にあるミュージカルの当日チケット売りブースへ。「マンマミーア」の午後のチケットをゲット。ミュージカルが始まるまでの時間を、休日で賑わうハイドパークで過ごした。ジョギング、池のほとりのレストランで昼食。レアル・マドリーのホームスタジアム見学時に買ったマスコットボールでボール蹴り。この日は快晴で暖かく公園内の花は満開。素晴らしいジョギング日和だった。

その後、ミュージカル「マンマミーア」鑑賞し、劇場街のレストランでディナーと、ロンドンの休日を楽しんだ。大英美術館前の集合場所で、B&Sデー

を終えた生徒達と合流してホテルへ。

最後に

湘南高校は、平成二五年に「グローバル人材育成のための学力向上進学重点点アドバンス校」に指定され、グローバル化を進めているが、サッカー部の海外遠征は、単なる英語研修旅行よりもはるかに得るものが多いと思う。試合中に感じたスピード感、相手プレイヤーと接触した時の衝撃などは実際にやってみなければわからないものである。試合後に開催される地元幅広い年齢層の方々との交流からは、普通の英語研修に参加することでは得られない手応えを感じたのではないかと思う。

私にとっても、今回の事前英語研修と遠征を通じて現役の生徒達と接触する機会を持てた事は大きな喜びであった。関係各位に感謝したい。

最後に生徒達の遠征旅行を終えてのアンケートを紹介する。

【初めての海外、とても貴重な体験をした。個人としては、英語力が未熟で思い通りにいかないことも多かったが、そういうところも含めて、非常に大きな収穫があったと思う。他の国の人と交流して向うの人のコミュニケーション能力の高さも感じた。自分にはないも

のを沢山持っていた。そして、海外留学したいという思いがさらに強くなった。そして出来ればイギリス、ロンドンに行きたい。この遠征はとても素晴らしいものであり、これからも継続して欲しいと思う。】

【この遠征を通して、サッカーの自信が少しついたのと観戦でサッカーに対する知識等が増えたこともとても良かったですが、何より日本語を使わずに会話を沢山することができて本当に良かったです。】

それと同時に自分の英語の未熟さを感じ、また、もっと完璧に話せるようになりたいと思いました。今までは聞き流していた「グローバル」という言葉を意識するようになったのは確かです。なので、日本に帰ってからも外国語の勉強に今まで以上に励み、習得したいと思います。とりあえずの目標は大学入試で満点を取る事ですね。今回は本当にお世話になりました。ありがとうございました。】

高校時代の海外遠征、異文化交流の経験は彼らの将来に大きな影響を持つものと確信する。この現役の海外遠征をこれからも継続していくべく、OB諸兄の協力をお願いしたい。

ブラジルW杯観戦スタート ・成田空港ターミナル2



元顧問・監督 鈴木 中



「ブラジル湘南会」と貞方邸でのパーティー

「スタート成田空港ターミナル」ブラジルW杯湘南観戦ツアー・6月16日～29日
(総勢16人は県FA関係4人、湘南サッカー部OB11人、JT B1人)

日本から応援に来ている沢山の日本人が居られたが、1つの学校の関係者だけで、このような集団は我々だけだったと思う。

特筆すべきことは、地球の裏側まで来て「ブラジル湘南会」との交流会であった。それは素晴らしい懇親会であった。湘友会にも報告されていると思うが古くは24回生中山氏、会長の定時制10回貞方氏、全日制41回安井氏、小口氏他10数名との交流会は、会長（ヤクルト）の豪邸に招かれ、新旧交えた素晴らしいパーティーだった。初めて口にする肉料理の数々とブラジル料理、そして奥様の温かいご接待、爽やかな空気のもと、日本庭園で湘南の「校旗」の前で声高らかに校歌を歌い「フレーフレーしようなん」のエールを交わし、名残を惜しみながら会場を後にした。

そして個人的な事であるが半世紀前に移民した、私の実弟の墓参りが出来た事もこの旅行の最高の思い出となった。又たまたま足の状態が良くなかったので、現地では杖を突いて歩くことが多く、色々の場面で人のいたわりに接する事があり、感激したことを幾つか紹介したい。先ずブラジルアでの試合観戦の時、8万人収容の観覧席入場口で女子の係員が「あなたの席は遙か上です。歩いて登るのは大変だから、近くの席に変更しましょう」と云って責任者を呼んで変更してもらい大変助かった。水戸黄門の印籠のように私のストックが役に立ったのは、驚きであった。帰りの空

港で大混雑の中、特別優先で入場が許されたり・

楽しいこと、嬉しいこと、親切にされること、思い出多いWC旅行であった。

さて肝心の日本代表のサッカーだが既にTV放映もされ、良いとこなしの3試合であった。親善試合は通用するが、ここ一番の真剣勝負になると勝つことが出来ない。いろいろ原因はあるがディフェンスの個の力不足に尽きるだろう。4年後を見て攻撃力を含め「個の力の強化」は間に合うのだろうか、世界に通用する選手が出てくるだろうか？心配の種である。

今回のブラジル旅行で強く感じた事は、日本人の2世、3世、達の中に日本人の古くからある良いものが残っているような気がした。言葉使いや、立ち振る舞い、礼儀、等、鈴木ファミリーの中に、そんなことを感じたうれしいブラジル旅行だった。



30回生 中原 弘巳

2014年度 ペガサス70の活動報告

今年の11月に堺市で、4チームが集まり0-80の大会が開催されました。

0-80の大会としては世界初と思われます。関東からは1チームが参加し、ペガサス70からも、中心メンバーとして川島さん、中島さん、山本修さん、守屋さん、佐野さんの5名が加わっています。

ペガサス70では、このような高年齢の方の活躍の一方、70代前半の若いメンバーも増えています。年齢構成をみると、全体39名のうち0-80が10名、0-75から0-79が12名、0-74以下が17名です。シニアサッカーにとって、プレイヤーの年齢に合わせて、サッカーを楽しむプレイできる機会を作ることが必要なことですが、ペガサス0-70のように、70歳から80歳以上と幅広い年齢層のメンバーを含む場合は特に重要です。

ペガサス70の活動としては、①全国シニア神奈川リーグと神奈川シニアリーグ、②Gリーグ等の県外大会、③馬入シニア0-70交流会とロイヤルリーグ、そして④「みなとみらい」の0-75交流会の4種類に分けられます。①の二つのリーグ戦は優勝を目指す大会です。そのため、今年は若手主体で臨みました。②と③は全員参加で行います。④は0-75のメンバーの交流会です。このように、0-70のなかでも年齢を考慮し、それぞれのメンバーが目的や体力に応じて楽しめるサッカーを行える

ようにしています。

全国シニア神奈川リーグと神奈川シニアリーグの両リーグは4チーム、1回戦総当たりで行っています。合わせて6試合となります。前述のように優勝を目指し若手主体で戦いましたが、いずれのリーグでも茅ヶ崎に1対0で敗れ、順位は2位に甘んじました。ミスで点を取られ、決めるべき時に決められなくて負けるのはどのチームにも共通しています。基本的には日頃の練習量の差があるように感じます。

県外大会は例年のように、埼玉スタジアム、深谷、市原、掛川、刈谷、熊谷、清水、那須と多くの大会に参加しています。これらの大会は勝敗には拘っていませんが、全体で4勝13敗と大きく負け越しているのは残念です。戦力アップが来年度に向けての課題となります。

これらの大会を通して、関東のチームや西日本のチームとの親善を深めています。那須の東日本ロイヤルエイジは今年で8回目となりますが、東北のチームと交流しています。昔の仲間と旧交を温める良い機会となっています。

平塚馬入人工芝での、神奈川O-70交流会は、年間を通してほぼ毎週実施ですが、毎回40名くらいが集まります。チームに分けてのリーグ戦をロイヤルリーグとして毎月1日行っています。

このリーグは全員参加が原則ですが、ペガサスは人数が多いので、2チームで参加しています。5チームでの総当たり戦を、年間を通して行っています。

O-75の交流会を、横浜駅に近い便利な「みなとみらい」人工芝グラウンドで、月2回行うことを今年から始めました。埼玉、千葉、東京と神奈川から、毎回35から45名程度が集まります。ここは皆さん電車利用ですし、場所柄もあって、終了後の飲み会も盛んです。

10月には、参加者で二つのチームを作り、宮城に遠征をしました。ペガサスからは6名の参加でした。ペガサス単独でのO-75チーム作りも、来年あたりは可能かも知れません。

今年は、O-80も含めて、世代ごとにサッカーを楽しむながら続けることが出来るようにする機会作りを開始した年でした。来年にかけてさらに充実を図って行きたいと思っています。

ペガサスO-70としては、若手による県内リーグの試合に勝てるチーム作り、県外試合では多くのメンバーの参加とともに戦力アップすること、そして今後充実するであろうO-75やO-80の活動にペガサスの多くのメンバーが参加することが、来年へかけての課題であり期待となります。

ペガサス65活動報告



41回生 二木 修二

ペガサス65は発足4年目。登録人数はO-70からの応援も含めると二十数名。試合への参加はぎりぎり11名からプラス数名でありメンバーを揃えるのが悩みどころである。

平成26年度から監督を引き受けた。試合のメンバー決定は悩むことが多いので、全員均等にプレーしてもらいたかったので、10分毎にポジションを順送りにしたこともある。しかしながらこれは失敗であった。ポジションに慣れるのに時間がかかり、連携プレーが全くできなかった。それからある程度ポジションを固定して、原則20分プレーにした。私は戦術を立てる柄でないのだが、その点はメンバーがサポートしてくれるので大いに助けられている。監督として行き届かないところが多々あったが、メンバーに大きな怪我もなく無事に活動を終えることができたのは今年の何よりの成果である。

主な活動は4月初旬に埼玉深谷大会、下旬に千葉市原スポレク大会、6月栃

木那須大会、7月茨城ひたちなか大会、10月埼玉熊谷大会、11月東京那須大会。合計6大会に参加し、試合数は合計18試合、成績は9勝4敗5分。これらの試合にて湘南OBと一緒にプレーできたのは、牧村先輩、5得点、山宮先輩、同級生の黒沢さん、1、伊通さん、庄司さん、1得点、後輩の田部井さん、1得点であり、先輩方の活躍著しい。いつまでも頼っておられない。自分たちが奮起せねばと思う。

湘南OBは全員元気に活躍していて、そのプレースタイルは高校時代のそれを今も思い出される。こうやって先輩や同級生、後輩と一緒にプレーできるのは楽しく、つくづく湘南サッカー部OBで良かったと思う。勿論湘南OB以外のメンバーも十名以上おり、和気藹藹としてやっているし、悲願であった正ゴールキーパーも新加入したなど戦力的には大幅増強の年でもあった。

県外試合では一泊二日が2回あった。試合後に温泉や風呂に入ると疲れが癒され気分爽快になる。この後、夕食だ。例年のパターンではあるがアルコールも入り試合談義が始まる。ロッジや部屋に戻ってからも延長戦でサッカーの話は勿論であるがメンバーの色々な人生談義が聞けるのも非常に参考になる。監督としては皆の話を聞きながら明日の

試合のメンバーのことなどを考えている。昔の酒豪も今はそこそこのようだ。定刻9〜10時頃になると明日に備えてベッドに潜る。二日目は前日の疲れも残っているせいか身体が重い、好きなサッカーができる喜びには勝てず、皆老体に鞭打って試合にでる。勝てば帰り道でのアルコールがまた格別美味しいようだ。帰り道の私は缶コーヒー派である。

県外のチームと戦って感じることは県外のチームは上手い、良く走る、パス回しが上手い、体幹が強い、良く声を掛け合っている、キック力があるなど学ぶ点が沢山ある。このような相手に対し勝率69%と先ず先ずの成績を上げているのは、押され気味であっても、カウンター攻撃でここ一番での得点が決勝点になっている。ガッツが発揮されたときに我がチームは勝っているのだ。走って、パスをもらう、正確なトラップと正確なパスが相対的に相手チームよりも少し上手くできるようになれば勝利はもつと近づくはずだ。

ペガサス65の監督としての来年の目標は楽しく怪我せずにプレーすること。楽しくというが、そう簡単ではない。負けるとあまり楽しくないのだ。だから勝つことも目標になるのだ。上手いチームが勝つとは限らないのがサッカーであるが、やはり、上手いサッカーをし

て勝ちたい。メンバーがそれぞれ個人の長所をさらに存分に発揮できるように努力し、来年こそ、チーム全体で上手いサッカーで勝つことが目標だ。目標達成にはシーズンオフの自主トレが非常に大事。バテない走力、キック力、ドリブル、フエイント、体幹の強化などメニューは目白押しだ。オフでの自主トレの成果を来年の試合で発揮し、チームとして勝利に結び付けられるのが目標であり楽しみでもある。O-65は身体の衰え、気持ちとの乖離を実感する年頃である。この乖離を少なくするには身体の強化は勿論だが、身体の衰えを認識することが必要だ。年相応のプレーができれば理想である。

湘南サッカー部OBとして、先輩や同級生、後輩たちと同じチームでサッカーできるのは楽しく、いつまでも続くといいなあとと思う。サッカーしながら健康で長生きできれば言うことなしだ。

湘南ペガサス60報告



44回生 坂部 治郎

2014年11月24日

湘南ペガサス60の実績は現段階では、

シニアリーグを7勝4敗2分けの3位(得点15失点9)で終了しました。

ダントツというわけではありませんが、一応目標の3位以内という点は達成しました。また、目標としている全国シニア予選は2勝4敗1分けとなつています。まだ試合が4試合残っています。

トーナメント戦は来月13日が初戦です。また県外大会(Gリーグ)は60の若手(?)にとつてはおまけみたいなものですが、60雀にはO-65という65歳以上のカテゴリーがあり、65歳以上はまだ70雀に届かない方たちがプレーをしています。総務は田部井さん、監督 二木さんのコンビで今シーズンは9勝4敗5分得点18、失点10という立派なものでした。

O-65の県外大会は一泊するものが多いけれども楽しみの一つと思います。但しメンバーがなかなかそろわず2日目は苦勞するというのがパターンみたいになつていきます。

60雀の今後の予定としては

- (1) 全国シニア予選 残り4試合 12〜1月
 - (2) トーナメント戦12〜2月(?)
 - 1〜4試合
 - (3) シニアフェスタ 2月14、15日 3〜4試合
 - (4) 清水大会 3月21、22日 3試合
- というもので結構ハードです。1年間

の試合数は公式戦で30試合近くペガサス祭のような練習試合を含めると40近くになる勘定です。

これを問題なくこなすためには、相当の体力を要求されます。

例えば小生の場合昨年は右膝外側副靭帯部分断裂を8月にして、2013年の9月以降は全く役に立ちませんでした。また今年は今月左ひざを痛めており、来年1月いっぱいには多分ボールをけることはできないと思います。サッカー選手にとり、ひざの負傷は結構致命的なことになりますので、大事にしたいと考えます。

ところでひざの負傷の理由ですが、年を取ったためというのが理由です。長年サッカーをやってきて膝の関節を結構痛めているということになります。こんなことは当たり前のことかもしませんが、怪我をして初めて思い知ることになるようで先輩のチームメートの医師からはもう治ることはないから、痛めた部位の周りの筋肉を強化することが治療法と宣告されております。

湘南ペガサスのメンバーにとりサッカーというのは生涯スポーツとなっております。サッカーというのは、見るのも面白いですが、やはり自分でも下手なりにボールを蹴って走って汗をかくというのが醍醐味でしょう。数年前に金沢で開催さ

れたスポーツフェスタに神奈川代表として参加することがありましたが、そこに同じチームの中に親子で参加されている方がありました。親の方は確か86歳の最長齢で子供が61歳だったと記憶しております。ペガサスもそんな場を提供できることがあればと思っています。



「シニアサッカーに 補欠なし」

ペガサス55報告
49回生 菅浦 義治

2014年度も湘南ペガサス55の監督兼選手の菅浦です。さて、ペガサス55の戦績はさておきとして、そもそもサッカーは、いやスポーツは何でも、勝たなきゃ面白くないし、勝つことを目標にプレーしています。現役諸君は苦しい練習にも耐え、全国大会出場を目標に頑張っています。ところで、そうして習得した技術・戦術はその後どうなったか考えてみると、皆さんそれぞれでしょうけれども、私の場合は、特に今、サッカーを楽しむために活用しています。

サッカーですから、勝負ですから、もちろん勝ちたいし、勝ちにいくし、勝てばうれしいし、負ければ悔しいです。けれど、それ以上に、今サッカーがで

きることに、していることが楽しいです。では、サッカーを楽しむため、特に私のようなシニア世代はどうしたら良いでしょうか。まず、サッカーをしに行く。試合に出る。チームでまたは自分で試合の評価をする。その評価を次の試合に生かす。そんなことの繰り返しでしょうか。ここで一番大事なことは、「試合に出る」ことです。上手い選手は試合に行けば必ず試合に出られるので、「何言ってるんだ。」と思うかもしれませんが、試合に来た人全員が均等に試合に出られて、しかも試合に勝つことは難しいのです。しかし、それをやってこそシニアチームの監督の名采配といえるのではないのでしょうか。折角の休みの日に、好きなサッカーをしに来て、試合に出られない、または少ししか出られなかったら、ストレス溜まりますよね。私はそんなことが無いよう、試合に来た人全員を半分ずつ以上出してもらって、しかも勝ちを常に狙っています。しかし、どうも後者の方はうまくいかないのが現実です。でも、それで仕方がないと思っ

ています。全員で楽しめば良いと思っ

65歳の時に湘南高校100周年となり、その時グラウンドに立ってお祝いするのが目標でした（前回の会報にも書いてと思います）が、あるサッカー仲間「自分は70歳までサッカーする。」と言われ私も目標を「70歳過ぎてでもサッカーする（結局死ぬまでやる）」に変更しました。健康に留意してサッカーを続けていく所存です。そしてそれができる湘南ペガサスであり続けるよう、湘南ペガサスという組織を維持・発展に少しでも貢献していきたいと思えます。今後、湘南高校サッカー部のOBの皆さんには一人でも多くの方にご協力をいただければと思っています。



2014 ペガサス50活動報告

52回生 八木 啓太

ペガサス50として公式戦と認識しているのはKSS（神奈川シニアサッカーリーグ）主催のリーグ戦、県議長杯、リーグ選手権と県協会シニア部会主催のO

50神奈川リーグとその延長にある上位大会であり、これにペガサス行事（ペガサス祭・湘南高蹴球祭・古河マスターズなど）、最近引き合いが増えたフレン

ドリーマッチなどを加えると年間の活動日数はフルで40日近くになる。この全部に参加するメンバーの有無は別にしても相当な数であり、我々の仕事以外の時間に占めるウエイトは大きく、それぞれのサッカーライフ、プライベートライフ充実の鍵を握っていると言っても過言ではないだろう。勝敗や順位などの結果だけに拘ることをせず、年齢相応にサッカーの美点を楽しむこと、チームメンバー相互の良きコミュニケーションを持つことがその充実の度を増幅してくれるのだろう。

私は今夏56という歳になり、早いもので五十雀のと真ん中、シニアに入門した40歳から瞬く間に15年が経った。40代前半にある大先輩から言われた「八木君、ペガサスにいればこれから30年はサッカーができるぞ。生きていけばな。」という金言を思い出し、「30年の半分がもう過ぎてしまったのか！」という焦りにも似たある感慨を覚え、まだ先は長いつもりではいるが、今後のサッカーライフの一コマ一コマを大切に大切に、より充実したものになりたいという欲求が強まっている。そんな思いを今後の幅広いチーム運営に生かしていきたい。

2014シーズンはまだ中途だがこれまでを振り返ると、、、
全日程終了したKSSリーグは8勝2

敗1分、勝点25の2位。勝点1差でまた優勝を逃したことは悔しいが、現状の力量からすると守備を中心によくやったと自負したい。0-50神奈川リーグは残り1ゲームを残し、4勝3敗2分でブロックの上位に食い込んではいらぬ。ただ全国優勝を意識した「寄せ集め」チームではあるが、全国への道は険しく公式戦の機会確保の場となっているのが現実である。

私が50に入ってから残念ながら優勝経験はないが5回の準優勝と2回の3位。まさにシルバードブロンズコレクターではあるが、神奈川県内の五十雀界の中では安定感のあるチームとして一目置かれる存在になれたのではないかと感じている。ただ、前述の「サッカーの美点を楽しむこと」の追求はチームとしてまだまだ道半ばというのが50代半ば現在の正直な実感で、今後の2ndHALFでそこそこいいかきに充実感を味わっていきけるかが最大のテーマでもある。もうすぐやってくる新しい年も体力の衰えに抗いつつ、皆ともうひと頑張り、ふた頑張りしたい。



オッサンとサッカー ペガサスジュニア



65回生 甘糟 直行

現役の頃、あまりサッカーが好きではなかった。サッカー部の練習も、あまり好きではなかった。いろいろ理由は思い浮かぶが、要するにヘタだったからだと思います。先輩にも同級生にも後輩にも自分より運動能力に恵まれていて技術があつて戦術理解度の高い、要するに自分よりうまい人たちがいっぱいいて、真面目に練習すればその人たちより上手くなるかもしれないなどと想像することはとてもできなかった。いつでもうつつら劣等感を抱いていた。特に他にすることもなし、という程度の気持ちでサッカーをしていた自分に、当たり前のことながら公式戦に出場する機会を訪れず、さしたる達成もなく引退を迎えた。自分にとって部活のハイライトは同級生との絆であつてサッカーという競技ではなかった。

大学に進学して、『遊び』としてサッカーをするようになった。ちょうどJリーグが開幕した頃で、『遊び』でサッカーをする機会はそのらじゅうに転がっ

ていた。周りにはそこそこ有名な高校のサッカー部出身とか、どこかのユース崩れとかもいたけれど、『遊び』と割り切っている限りうまい人たちへの劣等感はなかった。というか、湘南高校サッカー部の先輩の〇〇さんや同級生の〇〇に比べれば、大したことないように感じた。そういう『遊び』のサッカーはめっぽう面白くて、大学を卒業して社会人になってからも友達に誘ってもらったチームで千葉県リーグ2部に出たり、『フットサル』なんて言う新しい遊びに精を出したりもした。ああ、サッカーってこんな面白い遊びだったのか、と気づくとともに、気づくのが遅かったな、と悔いたりもした。毎日サッカーでできる高校時代に、サッカーが面白い遊びなんだっていうことを知っていたかった。

同級生に誘ってもらって初めてペガサスジュニアの練習に参加したのは奇しくも湘南高校のグラウンド。久々にうつつらとした劣等感を思い出して非常にドキドキしたが、40過ぎたオッサンたちがムキになってボールを蹴っている姿はまぶしくて、自分もその仲間に入りたという素直な思いの前に劣等感はスルーすることにした。そして今、キックオフ前の円陣で肩を組んでいるのかつて雲の上の存在だった先輩や同級生や後輩たち。そういう人たちと同じ

ピッチに立って勝ったり負けたり(ごくまれに)怒鳴ったり(かなりしばしば)怒鳴られたりする日が来ることを、現役時代に想像することはできなかった。かつてはあまり好きだと思えなかったサッカーが、実は最高に面白い遊びであることに気づき、面白がってボールを蹴り続けていたらいつの間にかそういう場所に立っていた。勝てば一部昇格という試合の前夜、あれこれ想像して寝付けずにベッドの上で寝がえりを繰り返すときのドキドキを経験し、今更ながら現役時代にレギュラーだった人たちをうらやましく思ったりした。そして、自分も今そういう場所にいることに改めて喜びを感じた。

はじめて練習に参加した日、誰よりも雲の上の人であったT先輩に最初にかげられたのは、やつと来たか、という言葉だった。何気ないひとことだったけれど、まさにその通りだったのだと思う。22年かかって、自分はやつとここに来た。締め切りの当日にこの原稿を書いてる。早く仕上げないと15時からのフットサルに間に合わない。40過ぎのオッサンが、10歳以上年下の友達に混じってムキになってボールを蹴る日曜の午後が待っている。気づくのは遅かったけれど、別に遅すぎたわけではない。サッカーという面白い遊びは、ずっと続くのだ。

トトカルチヨ湘南 2014年度活動報告



82回生 篠塚 貴志

湘南高校サッカー部OBの皆様、平素より大変お世話になっております。

若手OBチーム、トトカルチヨ湘南の篠塚貴志(82回)です。建設会社で設備設計者として働き始めて二年目となり、少しずつ仕事も増えておりますが、頑張った分だけ失敗が積み重なる日々を過ごしています。「若いうちは、苦労は買ってでもせよ」と諸先輩方に言われておりますが、これを乗り越えれば一人前になれるでしょうか…。設計者は多くの関係者を取りまとめなければなりませんので、トトカルチヨ湘南もうまくまとめて行かなければと思っておりますが、こちらも苦労している状況です。早速ですが、トトカルチヨ湘南の2014年度神奈川県リーグ(三部)の試合結果を御報告させていただきます。

- 5月11日 FC横浜アズール × 0-1
- 6月15日 海老名FC × 2-4
- 6月29日 FC ARROWS × 1-2
- 8月24日 TUIY(桐蔭横浜大学) × 0-6

- 8月31日 FC本郷 ○ 4-1
- 9月14日 カーネルSC ○ 3-1
- 9月28日 Panasonic/VIORA △ 1-1
- 10月19日 Mr.Bahinos ○ 1-0
- 11月30日 美蹴団新横浜
- 【10月終了時点…3勝1分4敗】

2014年度はトトカルチヨ湘南にとっては過去2番目に悪い成績です(10月現在)。三部リーグでは常に1、2位を狙える登録メンバーを揃えながらも、初戦の接戦を逃し、2/4戦目は参加者が少ない状況での試合となり、4連敗をしてしまいました。前半の連敗により今シーズンの昇格は絶望的となりました。メンバーの力不足というよりも、チーム体制・運営に問題があると痛感しております。シーズン前半からチームとして力を発揮できるように準備することが、昇格への近道ではないかと思えます。

また、現在トトカルチヨが抱える大きな課題が、GKの不在です。若手のGKは大学の部活で活動している選手が多く、新規加入のGKはここ数年一人もいません。登録しているGKも、仕事の都合により参加できる日数が限られているためGK不在の試合が多い状況です。湘南高校卒業生以外の登録も考えましたが、トトカルチヨ湘南を湘

南高校OBだけで構成する方針は崩さないつもりです。どうか、大学でサッカーに入っていない選手に来てもらえればと思っております。若手OBの皆様、ご協力をお願いいたします。

一方で、来年に向けて明るい話題もあります。ここ数年は継続的に若手が新規に加入していますが、今年度は大学サッカーを経験した選手が引退と共にトトカルチヨに加入するケースが見られました。高校卒業後、大学で部活に入る選手が増えていたため、今後も大学サッカーを経験した選手が加入することを期待しています。更に、トトカルチヨ湘南の大川・長は現役サッカー部のコーチとして活動しており、現役生とのパイプもより一層強くなっているため、新卒生の加入も期待されます。現役サッカー部が力をつける中でトトカルチヨ湘南は伸び悩んでおりますが、高い技術を持った新規メンバーが増えている今、どうか二部・一部への昇格を果たしたいと思えます。

昨年度に引き続きビーチサッカーの話をさせていただきました。サッカー、フットサルに続き、第3のサッカーと呼ばれるビーチサッカー。湘南高校サッカー部OBを中心に、ビーチサッカーチーム『湘南SPREAD1545』を作り、8年目となりました。

昨年度は、初の全国大会出場を果たし、全国3位という結果を残し、いい流れで今年度のシーズンが始まりました。今年は何んといってもチームのメンバーから日本代表が選ばれたことが一番のニュースです。

83回生の渋谷龍一選手が代表候補候補に呼ばれた他、84回生の杉田哲司選手(湘南高校在籍時はベルマールユースに所属)も代表候補候補に選出されました。杉田選手は、海外遠征のメンバーにも選ばれ、アジアオリンピック委員会主催のアジアビーチゲームズで、日本代表として、銀メダルを獲得しています。今年度のチームの戦績についてもご報告を致します。

全国大会の予選となる関東大会を準備優勝し、今年も全国大会の切符を手に入れました。

岡山県で行われた全国大会では、予選グループで、2強の一角である沖縄県のソーンプライアと同組になり、接戦の末2-3で敗れました。結果、予選



日本代表選手も

ビーチサッカーチーム

『湘南SPREAD1545』

79回生 櫻井 大輔

2位で惜しくも予選敗退となりました。しかしながら、昨年の準決勝で1-6で完敗した相手を苦しめ、チームの成長を感じることができました。

また、独立リーグである東日本リーグ、関東サッカー協会配下の関東リーグでは、どちらも3位という結果を残しました。東日本リーグでは、渋谷選手が、1試合平均2得点以上を叩きだし、日本代表の常連選手を抑え、得点王に輝きました。

チームとしては、まだまだ課題が山積みですが、着実に前に進み、日本のビーチサッカー界の第一線で強豪チームと肩を並べることが出来るところまで来ました。また、日本国内に留まらず、世界への扉が開いた1年となりました。

この歩みを止めず、更なる飛躍を目指すため、湘南スプレッドは新しい選手を募集しています。特に時間が取れる大学生に、挑戦してほしいです。日の丸を背負い、世界と戦う。夢みたくな舞台への道を用意して待っています。(なお、渋谷選手、杉田選手は社会人になってからビーチサッカーを始めていますので、社会人の方の挑戦もお待ちしています。)

また、選手以外でも、チームをサポートいただける方を募集しております。自身は、今年、神奈川県サッカー協会のビーチサッカー担当に着き、関東

サッカー協会配下の関東ビーチサッカー連盟の事務局を任されることになりました。

ビーチサッカーを通じて、関東、神奈川県、湘南、藤沢を盛り上げていくと共に、OBの皆様にも明るいニュースを届けられるよう頑張っておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

ご報告・新任挨拶



代表顧問 竹谷 睦
顧問 遠藤 真一

今年度も、OB会の皆様には多大なご支援を頂きましてありがとうございます。

6年間湘南高校でサッカー部を指導されました小林周太郎先生に変わります。4月より赴任し、サッカー部顧問になりました体育科竹谷・社会科遠藤です。4月当初より、曾根先生・細川先生の両顧問とOBコーチの大川コーチ・長コーチ、山田コーチ、そして選手・保護者の方々に支えて頂きながら、関東大会予選、インターハイ予選、夏季合宿、選手権予選と活動してきました。何より、鈴木中先生を始め、OBの相

羽様、関様、山田様には年度当初から温かく見守って頂き、とても感謝しております。また、他にも沢山のOBの方々が合宿や練習・試合に足を運んで下さり応援して下さいました。選手を始め、サッカー部としてとても力になりましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、スペイン遠征帰国後もなくの関東予選では、2次予選2回戦で湘南学院に敗退し、気持ちを新たに挑んだインターハイ1次予選では、逗葉高校に3回戦で敗退と、なかなか結果の出ない苦しい中で、選手たちは日々奮闘してきました。そして、3年生にとっては最後の大会となる選手権1次予選。苦しみながらも関東予選で負けた湘南学院に接戦の末競り勝ち、なんと2次予選への切符を手に入れました。3年生も全員残り、2次予選に向けて8月の合宿やフェスティバル等を経て挑んだ9月の2次予選初戦の2回戦では、対相洋高校に2-0で勝利し、10月の3回戦で、対向上高校に0-1で敗れ、県内ベスト16で今シーズンの幕を閉じました。

選手権を終えて感じることは、突然の監督交代という厳しい現実の中、また、スペイン遠征帰国後のコンディションニングが非常に難しかった年度始まりから、

たてつづけの公式戦、そして学校生活との両立、どれをとっても選手たちには非常に過酷な半年だったと思います。その過酷な生活を、特に3年生は、歯を食いしばってよく頑張ったのではないかと思います。残念ながら、ここ数年の湘南高校にとってのベスト8の壁に今年度も阻まれてしまいました。1、2年生にとっては、来年度に向けた手ごたえを感じる事の出来る最後の大会だったのではないかと思います。

新チームも始動し始め、引き続きのプロの指導者によるコンディションニング指導とフィジカルトレーニングのもと、文武両道を目指し、ベスト8の壁を乗り越えて県代表となれるよう日々精進して頑張っていきたいと思っております。最後に、湘南高校サッカー部のOBの皆様、今年度も温かいご支援を本当にありがとうございました。今後とも引き続きのご支援の程よろしく申し上げます。



●代表顧問 竹谷 睦 先生 プロフィール

【選手歴】

桐光学園高等学校第50回国民体育大会秋季大会サッカー競技出場(神奈川県国体選抜)

第74回全国高校サッカー選手権大会出場・大会優秀選手

国士舘大学

第71回関東大学サッカーリーグ戦 優勝

第72回関東大学サッカーリーグ戦 優勝

第47回全日本大学サッカー選手権大会 優勝・ベストDF賞

第23回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 優勝

平成10年、11年関東大学選抜

JFLリーグ戦出場

水戸ホーリーホック(2001年)

J2リーグ戦19試合出場

神奈川県教員SC(2009年)

【指導歴】

東洋大学サッカー部

フェリーチェサッカースクール

【教員歴】

鎌倉高校

横浜栄高校

●顧問 遠藤真一先生 プロフィール

【選手歴】

厚木高校サッカー部

【指導歴】

横浜平沼高校で2年間主顧問、監督、2年間は副顧問。

現役報告



現役主将 砂流 勇志

日頃より、OBの皆様からの心強いご支援とご協力により、日々充実した活動を送ることができ、大変感謝しております。そのご支援への感謝の気持ちをお忘れずに、日々精進していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

10月12日に向上高校に敗れ、3年生の引退が決まり、ベスト16という結果になりました。新チームでは、近年阻まれ続けているベスト8の壁を破り、頂上へ駆け上がって行きたいと思っております。

今、新チームでは個人の力の向上に取り組んでいます。1年間強豪校と戦ってきた中で、個人の力の必要性を改めて感じたからです。竹谷先生が掲げる選手の評価基準は3つあり、1に個人力、2に切り替えのスピード、3にチームへの献身性です。これらのことを意識しつつ、日々の練習や練習試合に取り組み、切磋琢磨しています。まずは半年後の関東大会予選まで、これらのことを徹底してチーム力を高めていきたいと思

ます。

先日行われた選手権の神奈川県大会の決勝を大多数の部員が見に行きました。その感想の1つとして、神奈川の決勝までの距離はそんなに遠くないと感じたという感想がありました。今年は部として、積極的に選手権予選の観戦に行つたので、今まで漠然としか感じられていなかった神奈川県大会までの距離感も、肌で感じる事ができたと思います。神奈川の頂上までの距離を逆算し、日々の練習に必要なことを考え、部活動に取り組んでいきたいと思っております。

また、今春には、2、3年生で海外遠征に行ってきました。サッカーの試合、観光、プロの試合観戦、学校交流など、沢山のことを体験してきました。その中で世界の文化に触れ、自分たちの見聞を深めることができました。これらことは部員の大きな財産になったと思います。この貴重な経験ができるのも、OB会の皆様のご支援があるからです。今後ともよろしくお願い致します。

部員一同、竹谷先生にご指導頂き、全国の舞台に立つべく活動していきたくと思います。OBの皆様には、これからも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

事務局便り



2013年秋から、46回森秀樹さんに現役の英語を指導していただき、現役との絆が非常に強くなっていることを感じます。これにより、スペイン遠征の内容がさらに充実しました。この場をかりて森さんに改めて御礼申し上げます。

87回、88回生の前後は、OB会費の納入率が飛びぬけて高くなっています。これもスペイン遠征の効果かと想像しています。

そのスペイン遠征中に小林先生の異動が発表となり、4月に入るとすぐ関東大会。並行して新任の竹谷先生・遠藤先生とのコミュニケーションをとるあわただしい日程でした。

今年度、計画していた「学年幹事」を完成することはできませんでしたが、来年は、藤塚先生と小林先生の教え子について、学年幹事を決定していきたいと思っております。

40歳以上の超OB戦は、曲がり角にきたようです。2014年3月の筑波大付属戦では、両校とも人集めがうまくいかないため、中止しました。11月のFKS(付属・神戸・湘南)対校戦

は、例年50才以上で実施してきましたが、第一生命のグラウンドが確保できず中止。11月24日に、仙台一高・湘南は50歳以上で超OB戦を実施しました。
 ペガサスは、外部の選手も入って、盛んに活動しています。純粹OBの試合は、なかなか難しく、今後の課題となります。

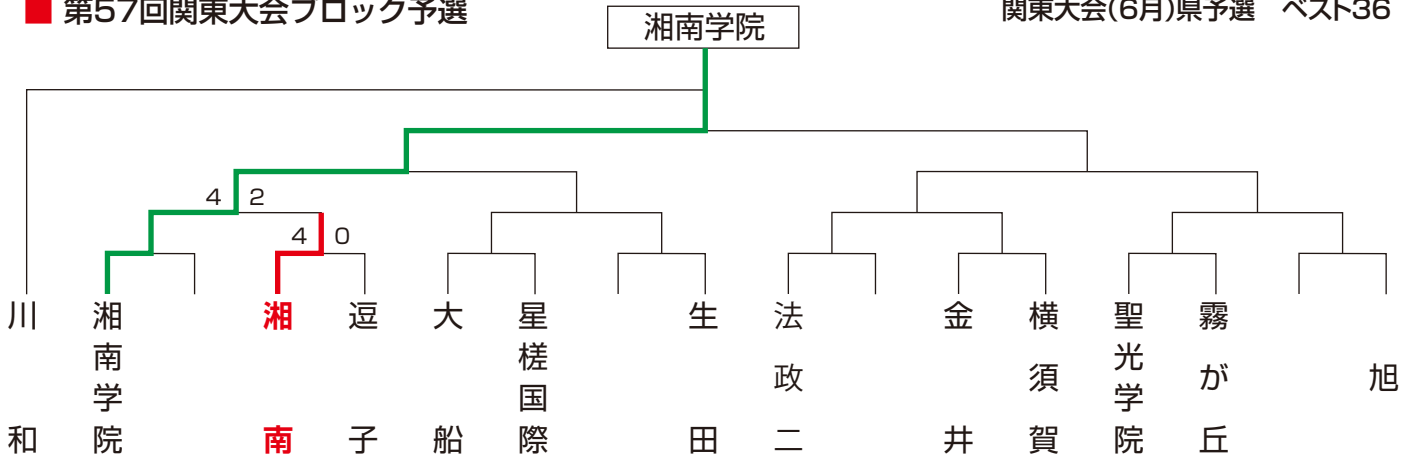
●お知らせ

6年間監督・顧問として、湘南サッカーに尽力された小林周太郎先生が、本年4月県体育センターに異動されました。前任の厚木北高では全国出場など成績を残し、湘南高校でも、と張り切っておられました。が、県教育委員会からの急な辞令で通例より早い異動となり、スペイン遠征時(3月末)に生徒たちに伝達されました。湘南生には特に、燃える気持ちの大切さを教えられ、これは今後も生かされていくことでしょう。小林先生のご健康とこれからの益々のご活躍をお祈りいたします。



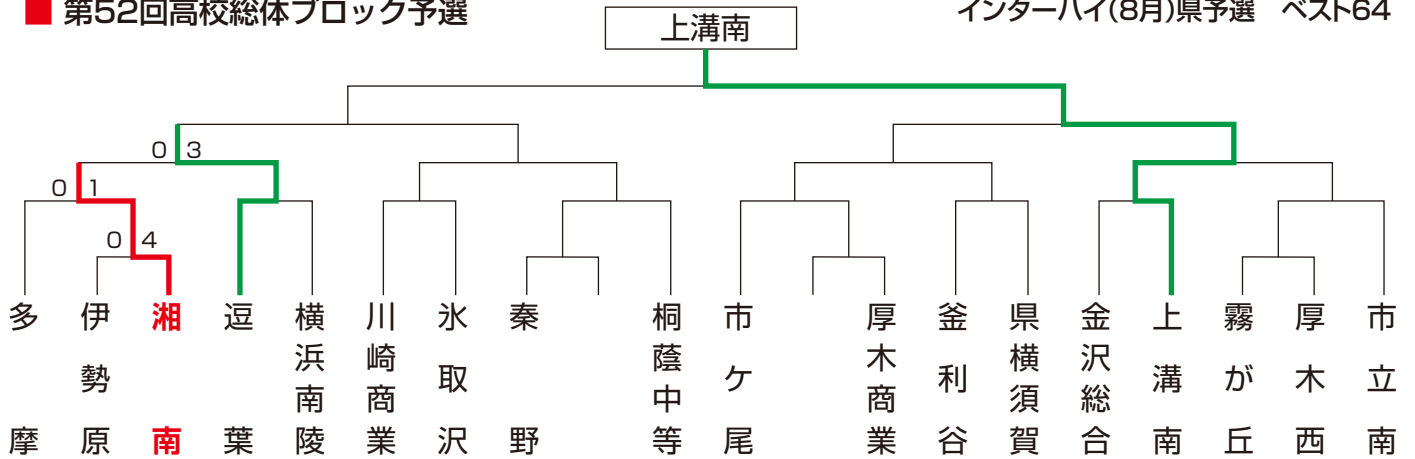
■ 第57回関東大会ブロック予選

関東大会(6月)県予選 ベスト36



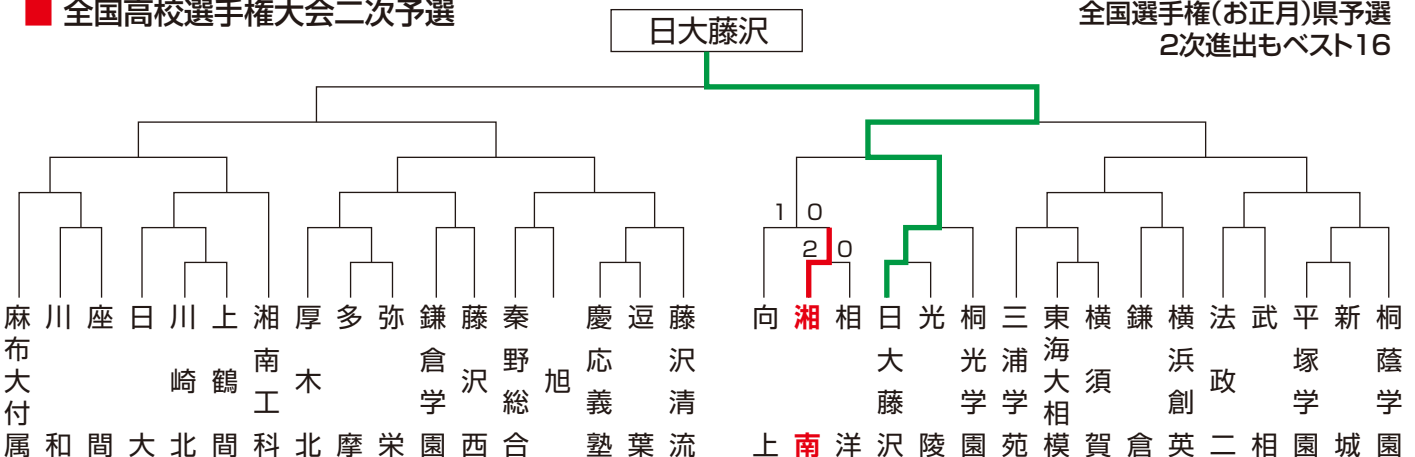
■ 第52回高校総体ブロック予選

インターハイ(8月)県予選 ベスト64



■ 全国高校選手権大会二次予選

全国選手権(お正月)県予選 2次進出もベスト16



グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

[蹴球祭・総会のご案内]



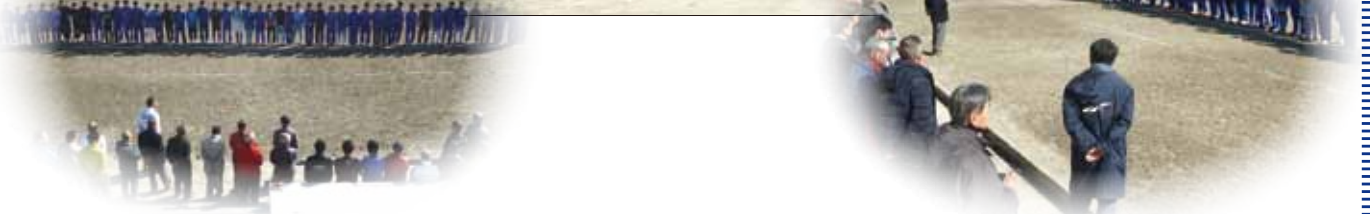
期日：1月11日(日)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

普段サッカーをしていない方、
運動不足の方も楽しめるマッチングをします。
是非、お越し下さい。

09:30~10:50	現役 VS トトカルチョ
11:00~12:00	総会 幹事会はその前9:30~
12:15~12:30	現役交歓式
12:30~13:30	食事
13:30~15:30	40以上 OB紅白戦 2面使用 (着替えは清明会館和室使用)

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄って下さい。
※受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。



【平成27年度 会計報告・予算案】

収入

	26年実績	27年予算
会費	1,443,000	1,210,000
前年度繰越	308,036	250,089
スペイン遠征（前年度から）	300,000	0
計（利子53含む）	2,051,089	1,460,089

※収入見込み 社会人130名、学生20名が納入10,000×100名+5,000×30名+3,000×20名

支出

	26年実績	27年予算
現役寄付（付属戦補助含む）	500,000	500,000
蹴球祭	80,000	100,000
スペイン遠征補助	750,000	350,000
通信・事務費	108,580	100,000
印刷費	162,420	160,000
100周年積立へ	200,000	200,000
繰越金	250,089	予備費 50,089
計	2,051,089	1,460,089

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、昨年度より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしく願います。現在積立金は、¥700,226-です。

また、100周年事業に対しては、「事業委員会」を作り早めに検討・準備を進めた方がよいと思われます。各代（特に60才以下）に委員への立候補を強く希望します。改めて委員への参加をお願いをさせていただく事もあります。その折は、是非よろしく願い申し上げます。

現役寄付・会計報告 平成25年11月1日～平成26年11月12日

収 入		支 出	
前年度から繰越	510	合宿補助（コーチ等）	49,439
寄付	500,000	トレーニング用品等	201661
その他	0	筑波	0
計	500,510	会場・グラウンド使用料等	89,006
		参加費等	29,697
		スペイン	12,240
		ボール	47,770
		コーチ代	75,206
繰越金	-4,509	計	505,019

【27年度会費納入の件】

26年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしく願います。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。


- ・社会人 1口 5,000円
- ・学 生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166
 湘南高校サッカー部 OB 会
 武藤俊一 TEL. 0466-34-9329

お問い合わせ・ご質問は

【ホームページアドレス】

湘南高校サッカー部  で検索。

湘南サッカー部OB会
<http://www.shonan-soccer.com>

【メールアドレス】

関 佳史（事務局）
seki6644@yahoo.co.jp

武藤俊一（事務局）
muto-s@jcom.home.ne.jp

横山雅行（事務局）
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp